

三木市女性センター情報誌

かわい



(絵 三木市自由が丘本町 時安希未子)

男女共同参画週間講演会

女性のための相談室

特集「夢の実現」

—私はこの仕事を選びました—

パートナーに伝えたいこと

本の紹介「らいぶらりいへようこそ」

インフォメーション・講座案内

P.2

P.3

P.4

P.5

P.6

P.7

P.8

第4号
2005.秋



「男女共同参画社会基本法」が、平成11年6月23日に施行されたのを踏まえ、毎年6月23日から29日を「男女共同参画週間」として全国的な取組が展開されています。

7月1日、三木市女性センターで、フェリス女学院大学文学部 諸橋泰樹教授を講師に招き、男女共同参画社会の実現に向けた講演会が開催されました。

まず、テレビで放映されたインタビュー報道の話から始まりました。例えば、踏切事故のニュースで2人がコメントしたとすると、背広を着た中年男性が、社会的な話をする一方で、子ども連れの20~30歳代の女性は、生活に密着した話をするというような構成になっています。実際には、何人かインタビューした中から、^{※1}メディア側が考える男らしい男性、女らしい女性のイメージに合った人を選択し、情報を発しているのではないかとう疑問が発せられました。



男の子向けのコマーシャル

次のワークショップでは、子ども向けのテレビアニメに挿入される戦闘ロボットと人形のコマーシャルを見ながら、どんな登場人物が、どんな場面設定で、どんな行動をとっているかを比較するため、グループ毎に意見を出し合い、それぞれ発表しました。

男の子用として作られたコマーシャルは、ロボットが力強く戦うイメージ、女の子用のコマーシャルは、女の子が人形を優しくお世話するというもので、男の子は力強く、女の子は優しくというイメージで意図的に作られているのではという感じがしました。

男女共同参画週間講演会

『メディアからみえる女と男』



このように、普段私達が、何気なく接しているメディアの情報から、男女はこうあるべきという^{※2}ジェンダーのメッセージが発せられていることがあります。無意識に植え付けられているジェンダーから解き放たれるためには、メディアは現実にあるものの一部を切り取って構成されていると認識する必要があります。その情報の中から真実を見極め、発信して、^{※3}メディア・リテラシーを身に付けていくことが、大人はもちろん、子どもにも必要ではないかと感じました。そうすることによって、子ども、女性、高齢者、障がいのある人など全ての人々が社会で生活しやすくなるというメッセージを今回の講座で学んだ気がします。



女の子向けのコマーシャル

※1 メディア

新聞・テレビ・ラジオなどの情報媒体のこと。

※2 ジェンダー

生まれる前に決定される生物学的な性の違い(セックス)に対して、出生後に周囲とかかわりながら育つ中で、こうあるべきだとして身についた性差観念(社会的・文化的な性差)のこと。

※3 メディア・リテラシー

メディア情報を主体的に選択し、内容を分析・読解し、活用できる能力やメディアを適切に選択し発信する能力を身につけることを意味します。メディア情報をうのみにしないで正確に解読する能力が求められています。

女性のための相談室

○○する私は、 わがままでしょうか？

こんな相談をされる方が少なくありません。

「言いたいことを言うのはわがままだと思っている」「自分がやりたいことをするのはわがままだと思っている」「人にものを頼むのはわがままだと思っている」「頼みごとを断るのはわがままだと思っている」あなたもこんな風に思ってはいませんか？周囲の人間の気持ちばかり優先して自分の気持ちや要求を我慢する生活を長く続ければ、だんだんしんどくなったり、イライラしたり、自分に自信が持てなくなったりします。波風をたてまいとして、

かえって関係がこじれることさえあります。ほんとうの自分を生きていないと、誰でも苦しくなります。

5～6月にかけて女性センターで「自己表現トレーニング講座」をしました。自分の気持ちを正直に率直に伝える練習（ロールプレイ）を実際に一人ずつにやっていただきました。なかなか自分の気持ちが話せないと言っていた方たちが、何度も練習するうちに、驚くほどすっきりと上手に言えるようになったのです。参加者から「我慢しなくていいと思えた」「ありのままの自分でいて楽になった」「自分を前より好きになれた」との声があり、今後の暮らしにもぜひ活かして頂きたいと願っています。

相談員からの一言

「自己表現トレーニング講座」

全5回

開催日 5月13・20・27日
6月3・10日
講 師 女性問題心理カウンセラー
正井 禮子さん

感情は、その人固有のもので「良い」「悪い」ではなく、汗と同じ生理現象なのです。

これまで特に女性には「怒り」の感情はあまり認められませんでした。怒りを感じる・気づく・認めることが大切であり、むしろ、「怒り」は表現する方がいいのです。

とりあえず、今のありのままの自分を受け入れることが、自己尊重（ありのままの自分を認める・自分が大切であり他者との関係においても尊重されるものであること）につながります。自分を受け入れることが、他者を受け入れる土台にもなります。



この講座では、自分の思いを伝えにくい日常の場面をロールプレイ（実習）を通して、相手を受け入れながら、自分の気持ちも伝えていくような自己表現の方法を学びました。

自己表現の基本ルールは

- ① 自分のことは自分で決める
- ② 両者の関係について、提案や意見が言える
- ③ 妥協や提案ができる
- ④ イエス、ノーをはっきり言うこと
- ⑤ 「ありがとう」や「ごめんなさい」といったあいさつ
- ⑥ 冷静に相手をほめたり、ほめられたりできる
- ⑦ 不必要なへりくだりやお世辞で人間関係を築かない
- ⑧ 一般化・絶対化しないでものを言う

「自分でできるカウンセリング」
川喜田好恵著（創元社）より抜粋

怒りの伝え方のポイント

- ① 怒りが小さいうちに伝える
- ② 自分を主語にする
- ③ 具体的にはっきりと
- ④ いつ、どこで言うか選ぶ
- ⑤ 言いっぱなしにしない
- ⑥ 勝とうと思わない

「自分でできるカウンセリング」
川喜田好恵著（創元社）より抜粋

神戸市北消防署 消防士 中井友紀子さん（三木市出身）

消防士4年目



火災予防・広報関係の部署を経て、平成17年4月から神戸市北消防署救急係に配属となり、現在救急車に乗務しています。

私が消防士を目指したきっかけは、大学2回生のときに三木の実家が全焼してしまうという悲惨な体験をしたことです。その後始まった就職活動時に、神戸市の女性消防士第1期生として現場で活躍されている先輩とお話しする機会を得、「私にはこれや！」と思いました。

救急隊として現在3名で現場に出動していますが、或る日、救急現場に着くと、男性が来ると思われた救急車から女性の私が声を掛けたためか、「ぎゅっ」と手を握って、「女人が来てくれて良かったわ」と救急要請された女性の方から感謝一杯の言葉を頂いたこともあります。女性の中には婦人科系の病気で救急車を呼ばれる方もいらっしゃるので、男性隊員には答えづらい事もあり、また自分の立場に置き換えて女人に声を掛けられた方が、素直に病状などを話せることもあるかと思います。

今後、女性ももっと活躍していく職場です。消防（救急）という仕事に意欲があるならば、働きやすい職場もあります。今までの道を先輩方が作り、私達はさらに大きな道をこれからも切り開いて行こうと思います。

私の次の目標は、より高度なテクニックを要する「救急救命士」です。

えびす保育園 保育士 小西 伸幸さん

保育士2年目



高校生のときの保育園での実習をきっかけに保育士を目指しました。園児の中には、「小西先生みたいになりたい」と言ってくれる男の子もいるみたいで、聞くと嬉しいです。

男性保育士ということで、はじめは保護者のかたにも、戸惑いがあったと思うが、いい意味で慣れてきたと思います。女性の保護者のなかには、女性の先生のほうが言いやすいということもあるようで、そこは難しいなあと思います。

関西国際大学 送迎バス運転士（株）ホープ 西神営業所 河野 友賀さん

運転士15年目



トラック、路線バスの運転手を経て今の職業に。

運転手という仕事は天職だと思ってます。ハンドルを握っているときが一番楽しいです。

運転手になろうと思ったのは、育ってきた家庭の影響ですね。女はただ辛抱するだけという家庭で育ちました。どうして女性は見下されなければならないのか、女性も男性と同じように認められる仕事がしたいとずっと思っていました。

当時は、まだ女性運転士も珍しく、家族にも友達にも賛成してくれる人が一人もいませんでした。

仕事上での男女差はありません。人の命を預かっていますので、すごく責任を感じています。ほとんどが男性という職場で、社会的には男女平等になったとはいえ、現在も女性一人なので、不便な面も多々あります。今後は、より体制を整えて、もっと女性運転士も増えてほしいですし、女性も一生安心して仕事を続けていく社会になることを願っています。

三木市民病院 看護師 神足 和彦さん

看護師15年目



患者さんがよくなられたときこの仕事をしていてよかったと思います。

今まで、看護師は女性が大半でしたが、看護師が女性だけであるということのメリットがあるとは考えないし、感じないです。職場の中では男性であるということを意識することも特ないです。

女性の看護師さんからすると男性の看護師を気にするのかもしれないが、それはわからない。私は気にしないです。

男性看護師ということで特に大変だと思うことはないです。既婚女性の同僚が、夜勤もあるし、子育てなど家庭と仕事を両立させているところのほうが素晴らしいと思います。参観日やお弁当作りなどたいへんだと思います。

今まで男性（女性）の職域とされていた分野にも女性（男性）が活躍する姿が見られるようになりました。今回、保育士、看護師、運転士、消防士として活躍する皆様にお話をうかがいました。

ひろの保育園 保育士 山中 亮人さん

保育士3年目



保育士になって3年目、子どもに何かをさせてやりたい、自分のもっている目標に子ども達を近づけさせたいという欲がでてきました。毎日、他の事を考える暇がないくらい忙しく、子どもの事だけ考えて向き合っています。

男性保育士がいることの良いところとしては、体操のときなどに、大きな先生が前に出て、さりとてしているのが子どもにとってもいい刺激になっていると思います。父親代わりといいますか、これは母子家庭の子どもにだけということではなく、みんなをひっぱっていく、大黒柱の役割になっていると思います。

ひろの保育園 保育士 西川 裕規さん

保育士2年目



小学校のとき、出身園に行って先生といろいろ話をしたとき、男の先生がいなかったので、自分がいいんじやないかと思ったのが保育士を目指したきっかけです。

4月の入園してきた時にはできなかつたことが、だんだんできるようになって成長がみられるのが魅力です。

大変だと思うのは、細かいところまで丁寧にする作業。苦手でおおざっぱなところがあるので。そういうところは女性保育士のほうが上手だし、音楽なども女性保育士に比べるとできないです。ただ、子どもを元気にする、盛り上げるのは得意です。

保育士をしていると、いろんな子を見てその子に合ったやり方をしていくなど考える力ができるし、自分の子育てにも良いと思います。

ひろの保育園 保育士 小松原正裕さん

保育士1年目



姉が保育士をしていたこと、中学のとき神戸のワークキャンプや保育園で子ども達とふれあう中で保育士という職業を選びました。実際に働いてみるとボランティアのときには気づかなかつたいろいろな仕事があります。

保育士の魅力は、人と人の仕事で自分がやれば子どもが成長するということです。しんどさはありますが子どもの笑顔が楽しいです。ひろの保育園では男性保育士は体育と和太鼓を任せられて、男性の役割が与えられているのがやりやすいし、同性の先輩がいるので恵まれていると思います。

◆神戸市では、消防士の女性採用は平成9年から始まりました。

神戸市の消防職員は、1,375名で、うち女性は33名で2.4%です。

(平成17年10月1日現在)

◆三木市の保育園（公立・私立）の保育士（非常勤除く）は168名で、うち男性は4名、2.4%です。(平成17年4月1日現在)

◆三木市民病院の看護師（正規職員）は207名で、うち男性は4名、1.9%です。
(平成17年10月1日現在)

編集委員の感じたこと

世間の目や職場の雇用状況は変化してきたようです。「自分がやりたいことがやれる社会になってきた」という声もお聞きしました。

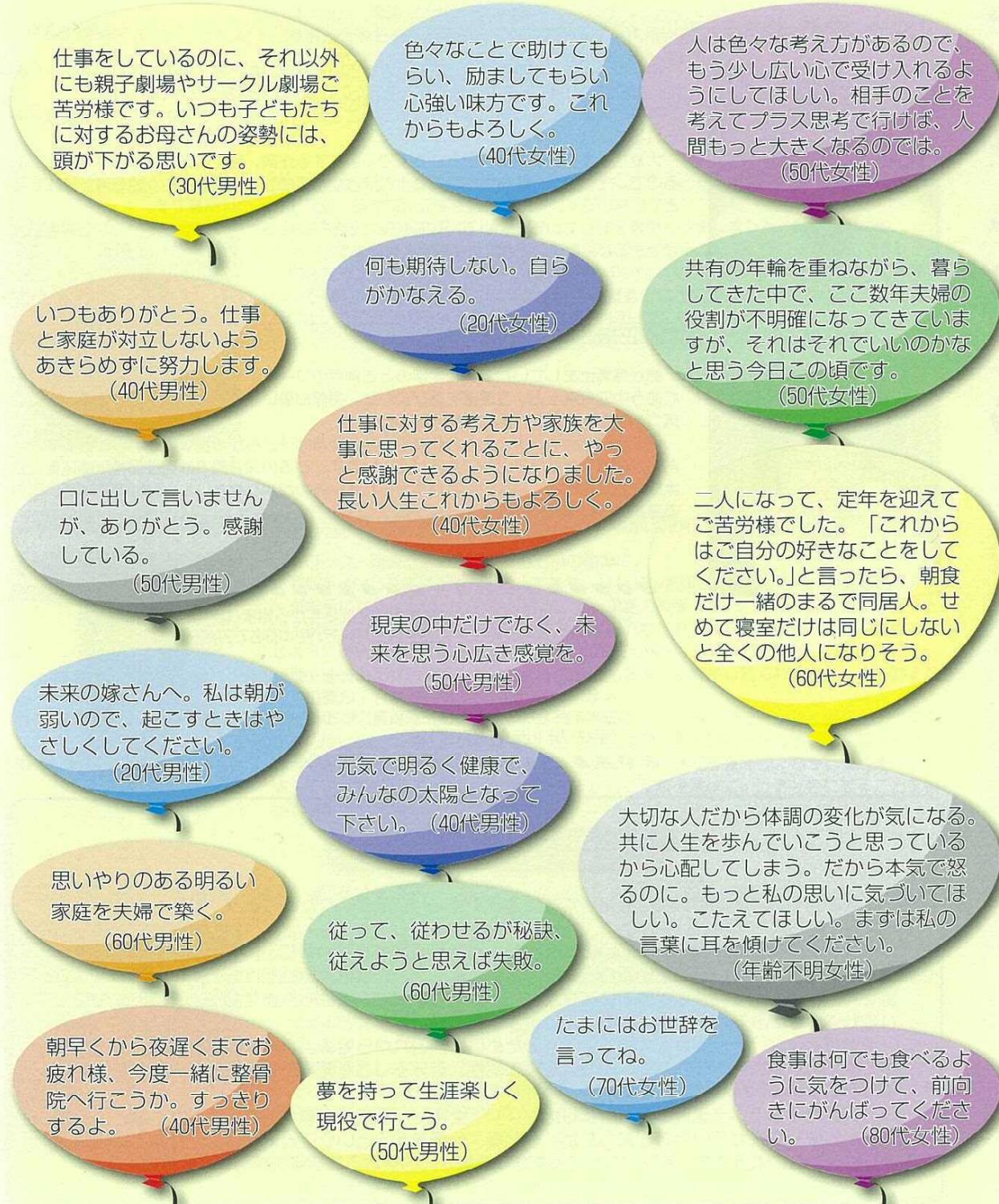
しかし、男女平等が意識されていても、実際は役割が固定されていることが多いようです。お茶くみ、コピーなどは女性がしていることが多くありませんか。力仕事は男性だけの役割だとは思っていませんか。管理職は男性ばかりではありませんか。職場で不便な点はありませんか。一度自分のまわりでも確認してみてはいかがでしょう。

待遇の改善は、今、仕事をされている方のためにも、これから始めようとする方たちのためにも必要です。そして、性別ではなく、一人ひとりの個性、自分らしさを発揮できることが人間の豊かさにつながります。

「男性だからという気負いはありましたか?」「女性だから困った事がありますか?」など、性差の面から取材をさせていただきましたが、専門職、仕事をするということにおいて、仕事上での男女差はあまりないようです。取材に応じてくださった皆さんのが更なるご活躍を期待しております。

伝えたい!パートナーへ

あなたはどんなことを、夫(妻)へ、そしてパートナーへ伝えたいですか。
女性側で多かったのは、「健康に気をつけて」「心強い味方です」のメッセージ。
相手の良さを再認識したり、眞の夫婦のあり方を探る言葉もありました。
男性側の「ありがとう」やパートナーを気づかう思いやりの言葉も印象的です。
男女両方からは、「共に仲良く、生涯青春」
あなたなら、どんなひとことを贈りますか。



(女性センター2周年記念事業ワークショップ「伝えたい!!私の周りの人々」より一部掲載)

『まあせんせい！』

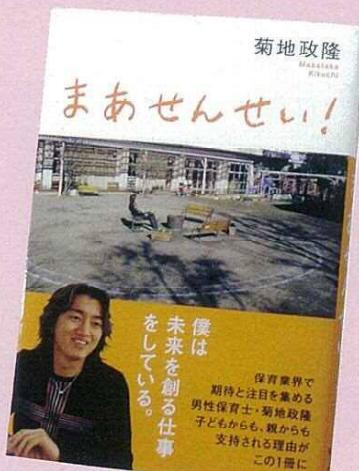
すべては子どもたちのために……

菊地政隆 著
ポプラ社 2005年発行

保育園の先生は女性という固定観念を持つ人がまだ多い現在、男性保育士の存在は珍しく目立つ存在です。著者の実家が保育園を経営しているといつても、自分の仕事を保育士とするにはかなり考え、挫折も味わっています。それでも、男性保育士たちと自分の会社を作り、論文を書き更に歌を作ってCD発売もするという活躍ぶりや、数々の経験や良き指導者との出会いから、どのようにして今日の自分になったかが書かれています。

- ・ライフストーリー
- ・日々の保育の中で
- ・遊び塾
- ・夢

各章毎に読みやすく、保育園の中で子ども達といっしょの写真も掲載され、ほほえましく、今後男性保育士を目指す人達にも参考に出来る図書です。



女性センター交流ルームの図書コーナーを一度覗いて見ませんか?……子ども向けの本もあり、一人2冊まで2週間貸出も行っています。



『女子マネージャーの誕生とメディア』

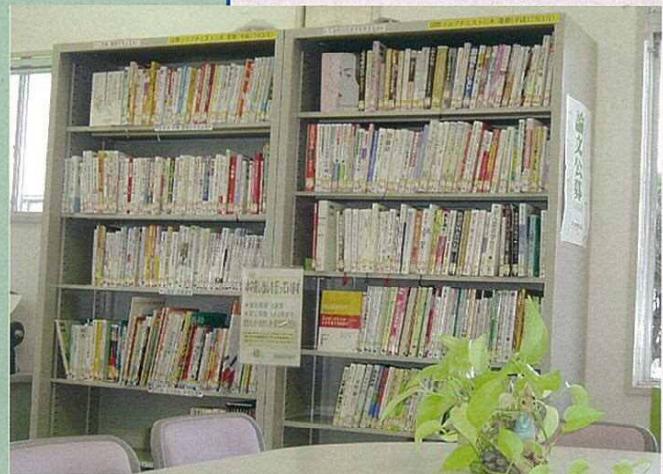
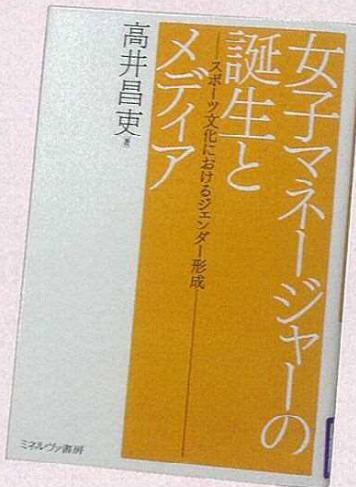
スポーツ文化における
ジェンダー形成

高井昌吏 著
ミネルヴァ書房 2005年発行

女子マネージャーといえばテレビドラマやマンガにも登場し、華やかな存在が見られますが、高校野球で甲子園のベンチに入れるようになったのは1996年以降のことです。

男性スポーツ集団に深く関わりつつもその一員になりきれない、「境界」を生きる存在としての女子マネージャー。

新聞・マンガなどのメディア分析や関係者へのインタビューを通して、その誕生の背景を解明するなど、いかに女子マネージャーがジェンダー化された言説やイメージとして構築されていくかを明らかにしている内容でした。



▲書架の寄贈「国際ソロブチミスト三木」

インフォメーション

三木市女性センターの講座案内

講 座 名	月 日	内 容	備 考
女性のからだとセミナー 講師 里の家主宰 赤松彰子	平成17年11月12日(土) 13:30~15:30	現代出産事情 ~あなたは何処で誰と産みますか?~	随時申込みできます。 一時保育有り。
	平成17年12月17日(土) 13:30~15:30	女性のからだと生殖医療 ~不妊は病気?~	
	平成18年1月14日(土) 13:30~15:30	更年期を考える ~人生の中間報告~	
	平成18年2月18日(土) 13:30~15:30	老後と介護 ~介護するもの、されるもの~	
	平成18年3月11日(土) 13:30~15:30	女性のからだと人権を守るために ~5つのキーワード~	
情報誌編集講座 講師 あかし情報誌グループ とまとPRESS 代表 木原明美	平成17年11月19日(土) 13:30~15:30	編集者の目で情報誌をみてみよう ~見せるデザインとは~	市内在住・在勤・在学で、 できるだけ5回連続受講 可能な男女20名。 修了された方の中から情 報誌編集委員を募集しま す。 一時保育有り。
	平成17年12月3日(土) 13:30~15:30	情報を集める方法	
	平成17年12月10日(土) 10:00~12:00	読ませるくふう ~記事の書き方 取材のしかた~	
	平成17年12月17日(土) 10:00~12:00	見せるくふう ~写真の撮り方~	
	平成17年12月24日(土) 13:30~15:30	作品合評会	
D Vに悩んでいる女性のため の語り合い	毎月第3木曜日 13:00~15:00	同じような経験を語り合い、気持ちを分かち 合い、情報交換しましょう。	申込み等は不要です。
女性にまつわるいろいろなテ ーマで語り合う会(CR)	10月27日(木) 10:00~12:00	ファシリテーター(進行役)は、「さくら草 の会」がします。	随時申込みできます。
	11月5日(土) 13:00~15:00		
	11月24日(木) 10:00~12:00		

第3回女のからだと性・全国一斉電話相談

からだや性のこと、誰にも話せなかったり、病院に行っても納得できなかったり一人で不安を抱えていて、どこに相談していいかわからないという方、どうぞお電話ください。

里の家 (0794-87-3210) 12月2日(金) 10:00~20:00
4日(日) 10:00~20:00
三木市女性センター (0794-89-2354) 12月5日(月) 9:00~17:00
6日(火) 9:00~17:00

募 集

女性センターでは、情報誌表紙のイラストを募集しています。
住所・氏名・年齢・電話番号を明記の上、ご応募ください。

[送付先] 〒673-0432 三木市上の丸町8-30

三木市女性センター「こらぼーよ」

*原稿の返却はしませんのでご了承ください。

・本誌に対するみなさんのご意見、ご感想をお聞かせください。

・情報誌編集委員を募集しています。一緒に情報誌をつくってみませんか。

防災フォーラム災害と女性(阪神・淡路大震災10周年記念事業)

～防災と復興に女性の参画を～

日 時：11月13日(日)午後1時から4時30分

場 所：あすてっぷK O B E(神戸市男女共同参画センター)

参加費：1,500円(前売り1,000円)

内 容：パネルディスカッション

コーディネーター もりきかずみ

パネリスト 北沢杏子、中嶋絢子、スペンドリニ・カクチ、尾辻かな子、正井礼子

申込・問合せ：ウィメンズネット・こうべ(078-734-1308)

編集後記

瀬戸 友子

編集委員をしていると、様々な方のお話を聞く機会が増えました。楽しみもあり、勉強にもなります。

山田 鶴子

自分のやりたいことに向かって努力をし、様々な職業に男女が進出してきていることが、わかりました。

沖中 秀美

夢と情熱を持って仕事に取り組んでいるみなさんのキラキラした瞳が印象的でした。

福田 亮子

人は、それぞれが異なった性格や能力を持っていますが、「女性(男性)であること」も個性のひとつに過ぎないのかもしれないと思いました。

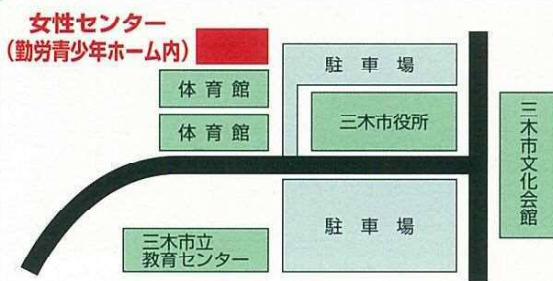
筒井 千恵子

暑い夏に体がグッタリしてしまって、いまひとつハッキリとしたものが、書けませんでした。次回は、パワーアップして、読みやすく興味のある記事を書きたいと思っています。

長尾 真琴

私達は、どこに行こうとしているのか?
何を望んでいるのか?

女性センター (勤労青少年ホーム内)



企画・編集
発 行

情報誌編集委員会

三木市健康福祉部人権尊重推進室(三木市女性センター「こらぼーよ」)

〒673-0432 三木市上の丸町8番30号

TEL/FAX. 0794-89-2331 E-mail:jinken@city.miki.lg.jp



古紙配合率100%再生紙を使用しています